瀬戸内海歴史民俗資料館
瀬戸内海歴史民俗資料館開館５０周年記念事業
れきみんで瀬戸内海を学ぶ

実施期間：２０２３年4月１５日（土）～２０２３年１１月２６日（日）

連続セミナー

そらあみ

ナイトミュージアム

シンポジウム

【事業の内容・目的】

■開館５０周年を迎える瀬戸内海歴史民俗資料館の調査研究成果や瀬戸内各地から集めてきた民俗資料等を活用し、瀬戸内海と沿岸地域に住む人々のくらしのつながりに改めて目を向け、その歴史や現在の状況、これからのあり方について考える。

■歴史・民俗分野だけでなく、自然、水産、交通、環境、芸術などさまざまな分野の視点を交え、スタイルの異なる４つの事業を展開することで、関心を持つ人の層を広げ、海と人の多面的なつながりについて学ぶ。

■近隣小学校を招いた体験的な学びのプログラムを実施するなど、学校教育との連携を深める取組みを行うとともに、香川大学創造工学部など地元大学とも連携を深め、海の学びを通した人材育成を行うとともに、子どもむけ学習プログラムの開発などを目的とする継続的な連携関係を築く。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１．連続セミナー「５つの視点から瀬戸内を見る」

【開催日時】２０２３年4月１５日（土）～6月２５日（日）パネル展
第１回　４月２２日（土）　「瀬戸内海の成り立ちと海底地質」
長谷川修一氏（香川大学名誉教授）
第２回　５月１４日（日）　「底引き網漁師に聞く」
西谷明氏（瀬戸内漁業協同組合副組合長）
第３回　５月２７日（土）　「海の安全を守る」
高松海上保安部職員
第４回　６月１１日（日）　「海ごみ 県境を越えて」
山陽学園中学校・高等学校地歴部
第５回　６月２４日（土）　「瀬戸内をアーカイブする」
下道基行氏（瀬戸内「　　」資料館館長）
村山淳氏（一般社団法人トピカ代表理事）
各回とも１０：００ ～ １１：３０

【開催場所】瀬戸内海歴史民俗資料館　瀬戸内ギャラリー

【参加者数】セミナー（全５回）　　１９６人
パネル展　　２，６７２人　　合計　２，８６８人

【活動内容・目的】
●地質学や漁業、海上交通、環境、沿岸地域のアーカイブなど異なる分野で活動する講師を招いて連続セミナーを開催し、さまざまな視点から瀬戸内海や人との関わりについて考える。
●各回の内容を紹介するパネル展会場でもある展示室内のギャラリーで実施し、講師が館内や屋上展望台からの景観の解説をしたり、講師・参加者・職員が意見交換するなど、双方向性のある学びの場を提供する。

会場とパネル展示の様子

セミナーの様子（第１回）

模型なども使いながら説明（第２回）

職員も参加して視点を深める（第５回）

セミナーは、参加者に内容がわかりやすく伝わるよう講師が必要な参考資料などを使いながら実施。また、職員が聞き手となる「公開聞き取り」のスタイル（第２回）や、講師二人と職員がそれぞれの視点から意見を交換しながら話を展開するスタイル（第５回）など、進行のあり方も各回で工夫した。テーマだけでなく、進め方も変化をもたせることで新たな学びをつなげられるよう心掛けた。

屋上展望台で海を見ながら解説（第３回）

かるたを使って楽しく学ぶ（第４回）

各セミナーでは、必要に応じて関わりのある展示資料を紹介したり、屋上展望台から実際の景色を見ながら解説を行うなど、座学だけではなく資料や実景を使った説明を加え、より深い学びにつながるよう取り組んだ。また、高校生たちが講師を務めた第４回では、海ごみをテーマに作成したかるたを使い、参加者同士が交流しながら海ごみについて学んだ。

【参加者の声】

◯屋上で海図を見ながら、実際の海の景色や島の位置関係について学べたのが良かった。海の底の状態や水深、流れなどを知る事がいろんな点でとても大切なことがわかった。

◯海と陸が密接につながっており、毎日の生活の中で何気なく目にするゴミが瀬戸内海を汚していることを知り、少しでも自分のできることを広げていきたいと思った。

◯瀬戸内海の島や沿岸に住む人たちの生活のあり方も知ることができた。海を良くすることは、自然環境だけでなく社会生活の改善でもあるということがわかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．そらあみ －瀬戸内海歴史民俗資料館－
アートで文化遺産を編みひらく

【開催日時】２０２３年
6月１３日（火）・２２日（木）　小学校出前授業
6月２９日（木）・３０日（金）　小学校ワークショップ
7月２２日（土）・２３日（日）　歴民で《そらあみ》を編む
8月３日（木）　ふるさと体験ツアー
7月２２日（土）～9月３日（日）　《そらあみ》制作
10月14日（土）～11月26日（日）　《そらあみ》展示

【開催場所】瀬戸内海歴史民俗資料館　第１展示室・研修室

【 作　家 】五十嵐靖晃 氏

【参加者数】ワークショップ等　　２８４人
期間中の来館者数　５，８９２人　　合計　６，１７６人

【活動内容・目的】

●「網（あみ）」をテーマとして瀬戸内海の自然環境やそこで漁をする人間の知恵と暮らしのあり方を学ぶとともに、アーティスト五十嵐靖晃氏によるアートプロジェクトとして実際に《そらあみ》を編むことで、五感を使った体験的な学びを提供する。

●瀬戸内各地で使われていた民俗資料と向き合いながら《そらあみ》を編むことで、地域のくらしの記憶を伝える資料と人を改めてつなぎ、一緒に編んだ人同士をつなぎ、作った人と見る人をつなぐ機会にする。

小学校出前授業

小学校ワークショップ（そらあみ）

近隣小学校２校を対象として出前授業と来館してのワークショップによる学習を実施。出前授業ではさまざまな漁網について学び、体育館で実際に網を広げて大きさや形を確かめた。その後のワークショップでは館内の見学とそらあみの制作を体験し、網をテーマとして海と人のつながりについて学んだ。

小学校ワークショップ（館内見学）

歴民で《そらあみ》を編む

ふるさと体験ツアー

一般募集のワークショップ「歴民で《そらあみ》を編む」では、網についての座学や館内見学をしたうえでそらあみ制作を行い、作家と対話しながら体験を通した学びを行った。「ふるさと体験ツアー」では一般募集した子どもたちを対象に館内見学・そらあみ制作を行い、香川大学創造工学部の学生たちと交流しながら学びを深めた。

来館者がそらあみを編み進める

制作期間中は来館者が少しずつそらあみを編み進め、体験を通した学びが広がった。制作に参加した人は延べ５３６人。完成したそらあみは第１展示室に展示され、アート作品となることで海と人の間を改めてつなぐ役割を果たした。

そらあみの展示（撮影：宮脇慎太郎）

【参加者の声】

○瀬戸内海の特徴に合わせて漁網が発達したことから海にもいろいろな違いがあるということ、編む道具が世界中で同じなので海はつながっているということを感じた。

○海と共に生きるということは、さまざまな知恵・経験・工夫と、人々が力を合わせるということで成り立ってきたということを感じた。

○海にはいろいろな魚がいて、それをとるための道具がたくさんあることがわかった。海はやっぱり守りたいと思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．れきみんナイトミュージアム ―夜の海とあかり―

【開催日時】２０２３年１０月２８日（土）１７：００ ～ ２０：００
１０月２９日（日）１７：００ ～ ２０：００

【開催場所】瀬戸内海歴史民俗資料館

【参加者数】１００人（２日間）

【活動内容・目的】

●夜の資料館で、敷地内の灯台モニュメントに明かりを灯し、館内にも船舶灯などを展示するほか、屋上展望台から見える夜の瀬戸内海について解説し、暗さと光を活かした夜の海を入口とする学びを提供する。

●通常とは異なる夜の雰囲気を演出し、暗闇の中でのウミホタル観察会や木造船のペーパークラフトの工作コーナーなどを設置し、子どもたちも楽しみながら学べる内容とする。

ナイトミュージアムの様子（外観）

明かりを灯した灯台

屋上展望台での夜の海の解説

屋上展望台から見る夜の瀬戸内海

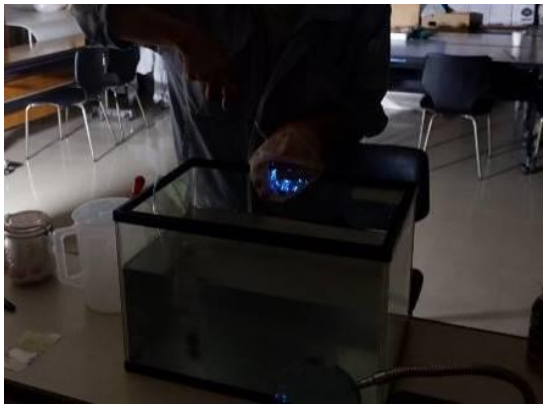
灯台モニュメントにフレネルレンズを入れて照明を灯し、夜の海の暗闇の中でどのような光が海の安全を支えているのかを体感しながら学んだ。また、屋上展望台からは実際の夜の瀬戸内海を見ながら、この場所にある景色を素材として灯台や行き交う船の船舶灯の光について話を聞くとともに、海図などを見ながら目に見えない海底の様子などについて学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

船舶灯の展示

光と音の歴民解説ツアー

常設展示室は通常より照度を下げ、代わりに収蔵する船舶灯に照明を入れて展示し、昼間はなかなか認識する機会がない船の灯りの役割について学べるように工夫した。また、第１展示室では、香川大学創造工学部学生の企画により、職員が行う展示解説に光と音の演出を加えた解説ツアーを実施し、いつもの常設展示室とは異なる空間を作り出したことで新たな学びがあったと参加者に好評であった。



ウミホタル鑑賞会

木造船のペーパークラフト

真っ暗な室内で海ほたるが発光する様子を観察。きれいな海に生息することなどを学び、瀬戸内海の環境についても考える機会となった。また、展示室の中央に常設されている瀬戸内海の鯛シバリ網船を香川大学創造工学部の学生たちがペーパークラフトにし、子どもたちは大学生と楽しく工作しながら地域の漁業や昔の人たちのくらしについて学んだ。

【参加者の声】

◯海の漁場を確認する方法（ヤマアテ）を知ることができて良かった。海と山は、つながっていると思った。山の形状が変わることで、漁場がわからなくなると思った。
（香川大学生企画の常設展示室での光と音の解説ショーに参加しての感想）

◯夜の船の航行について、これだけの苦労と工夫を重ねて安全に渡れるのだと思った。

◯うみほたるの観察と船づくりが良かった。海ってきれいだなと改めて感じた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．開館５０周年記念シンポジウム
《海》と《日常》の間をつなぐ

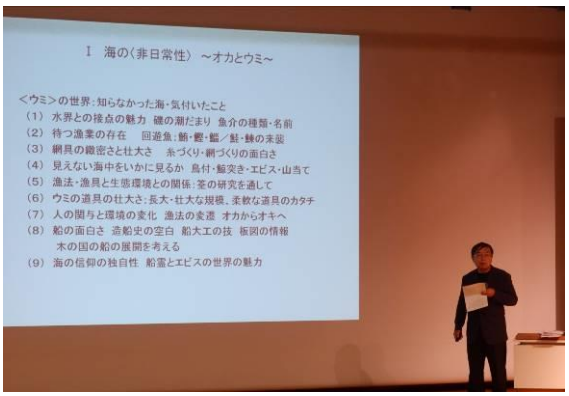
―瀬戸内海歴史民俗資料館の５０年とこれから―

【開催日時】２０２３年１１月3日（金・祝）１３：３０ ～ １６：３０
【開催場所】香川県立ミュージアム　講堂
【参加者数】１２２人
【活動内容・目的】

●民俗学者の神野善治氏やグラフィックデザイナーの佐藤卓氏をお招きし、さまざまなかたちで瀬戸内海とつながる沿岸地域と、そこに住む人々のくらしに改めて目をむけ、その間をつなぐ「場」としての当館の活動について考える。

●民俗学とデザイン、瀬戸内とその外の地域など、異なる視点をもって意見交換することで、幅広い参加者層に関心を持っていただくとともに、新たな気付きを生みだすことを目指す。

シンポジウム会場と報告の様子



神野善治氏による講演

佐藤卓氏による講演

当館のあゆみについて報告した後、神野善治氏が「海の民俗造形を読み解く ―歴民コレクションの面白さ―」と題して瀬戸内海の漁撈用具などを紹介しながら講演し、次いで佐藤卓氏が「生木に花咲くに驚け。」という題で展示企画等の経験を踏まえながら対象をさまざまな角度から見ることの面白さなどについて語った。パネルディスカッションに先立ち、専門の異なる講師それぞれの視点からテーマに沿って話題を提供した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

パネルディスカッション

活発な意見交換が行われた

パネルディスカッションでは、自身と海との関わりの話を入口として、日常やそれに関わるくらしの道具の捉えかたなどに話題が発展し、異なる分野からの視点が交差することで生まれる新たな気づき、発見にあふれる活発な意見交換が行われた。当たり前を当たり前と思わない姿勢で身近な海や日常に向き合うことの面白さや、そこで資料館が今後果たしていく役割の大切さを改めて考える機会となった。

【参加者の声】

◯瀬戸内に住んでいて当たり前と思っていた「海」について改めて考えさせられた。レジャーや生活、海上交通などいろんな角度から海にアプローチしていこうと思った。

◯道具から海と人との関係が示されてとても良かった。自然としての海ばかり感じてきたが、人がいてその営みによって海を感じられるという点が良かった。

◯登壇者の話がそれぞれ面白かった。自分の日常は海と深く関わっていることを改めて感じた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

海の学びミュージアムサポート事業を活用したことで、開館５０周年という節目の年に、新たな企画による４つの事業を途切れなく実施することが実現でき、期間中の来館者数は過去 10 年間の中でも最多の実績となった。「瀬戸内海」や「民俗」などをテーマとする当館の調査研究の成果や収蔵資料を活用し、さまざまな分野を専門とする講師を招いた連続セミナーや、アーティストと一緒に取り組む「網」を使ったアートプロジェクト、夜の資料館ならではの海の学びを提供するナイトミュージアム、そして民俗とデザインという視点から考えるシンポジウムという異なるタイプの事業を実施した。参加者からは、「身近な海についてもっといろんな角度から学んでみたいと思った」、「自分の日常が海と深く関わっていることを改めて感じた」といった声が寄せられ、歴史・民俗だけでなく、異なる分野からの視点をとりいれた企画にすることで、海と人の関わりの多様性を示すとともに、それぞれに興味のある分野から海について考える機会を提供することができた。また、事業の企画・運営を通して地元の大学をはじめとする複数の施設、団体等との連携が深まり、今後の活動においても協力していける関係を築くことができた。これらの成果を踏まえ、学校教育などにおいても当館を海の学びの場として活用していただけるよう、引き続き他団体等と連携しながら取り組んでいきたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
１．香川大学創造工学部	連続セミナー記録冊子の編集・デザイン、そらあみ子ども向けワークショップの企画・実施協力、ナイトミュージアムでの光と音の解説ツアーおよび木造船工作コーナーの企画・実施など
２．五色台ビジターセンター	そらあみの準備協力および子どもむけワークショップでの協力など
３．高松海上保安部	連続セミナーへの講師派遣、ナイトミュージアムにおける屋上展望台での夜の海解説など
４．公益財団法人 明治百年記念香川県青少年基金	そらあみ子どもむけワークショップ運営・実施など
５．香川県水産試験場	ナイトミュージアムのウミホタル鑑賞会への協力など

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
１．四国新聞	「瀬戸内の人々の営み深掘り」、2023 年６月 26 日
２．四国新聞	「漁師の知恵　一端触れる」、2023 年６月 30 日
３．四国新聞	「博物館との化学反応」、2023 年８月 19 日
４．読売新聞	「海と生きた日常残す」、2023 年9月 25 日
５．四国新聞	「瀬戸内国際芸術祭参加作品「そらあみ」と民具“競演”」、2023 年 11 月3日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。